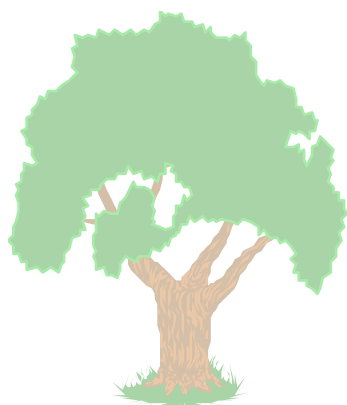


長野県林業総合センタ - ミニ技術情報

9 平成11年5月 1999.May.

(平成22年4月 一部修正)



長野県林業総合センタ - 塩尻市片丘 5739
 Nagano-prefectural Forestry Research Center
 TEL 0263-52-0600 FAX 0263-51-1311

ニセアカシアとタケの枯らし方

キ - ワ - ド: ニセアカシア、タケ、除草剤、枯殺

ニセアカシアとタケは、どちらも繁殖力が強く、次第に拡大して造林地や宅地などにも侵入することから、その除去が問題となっています。

ここでは、除草剤を用いてニセアカシアとタケを枯らす方法について紹介します。

ニセアカシア

ニセアカシアは、北アメリカ原産で、1874年頃に日本に導入されたマメ科の高木で、現在は全県下で野生化しています。成長が早く、根粒バクテリアの作用により痩せ地でも生育が可能なことから、治山砂防用緑化樹として、戦前から導入され始めましたが、積極的に使われたのは戦後のことです。

いくら切っても萌芽すること、また根が残っているだけでも萌芽するなど繁殖力が極めて強いことから、処理方法に困難が伴います。

タケ

タケは、イネ科タケ属の植物で、県内で生育しているタケはモウソウチクとマダケが多く見られます。

地下茎により生育範囲を拡大するため、竹林周辺の畑や森林などに侵入してしまうことがあり、長野県では南信地域を中心に大きな問題となっています。

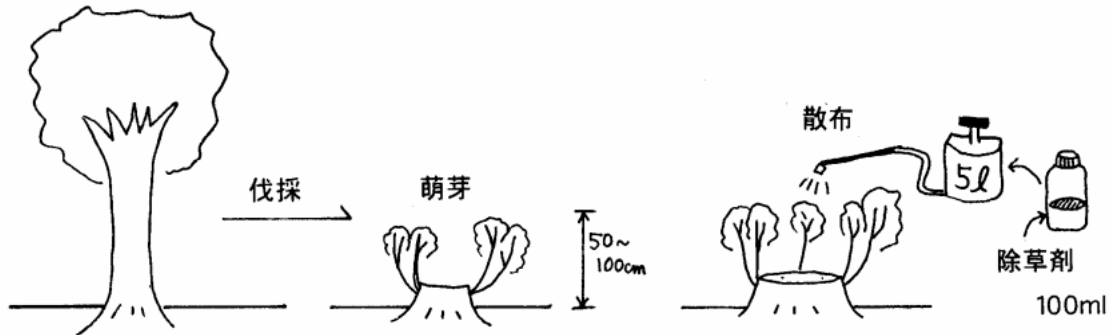
枯殺方法

両種ともに地下部が生存していると、翌年に芽を出してきてしまいますので、枯殺するためには根系までしっかりと枯らすことが必要です。そこで、薬剤が植物の体内を通過して地下部まで浸透する性質を持つ、浸透移行性の除草剤を用います。こうした薬剤として、タケ類ならびにニセアカシアなどの樹木類に使用できるものは、グリホサート系液剤を主成分とする「ラウンドアップハイロード、タッチダウン i Q、サンフーロン、三共の草枯らし」など10種類以上が農薬登録を受けています。

ニセアカシアの防除方法

ニセアカシアの防除はまず、冬から春までの間に立木を伐採します。伐採すると、切り株から萌芽が発生してきますので、伐採後1～2ヶ月ほど経過し、萌芽が50cm～1m以内に成長した時に、除草剤を散布します。散布する際には除草剤を50倍に薄め、葉の表面が濡れるまでたっぷりと散布してください。

ニセアカシアの防除方法



散布から1週間後くらいで葉の変色が始まり、2月くらい経過すると、幹が枯死し始めます。翌春まで経過した頃には、根までしっかり枯れています。

これらの除草剤は、樹種を選ばずに枯殺しますので、周囲に生育している植物まで枯らさないように、風のない時に散布量の少ないノズルを使用することが重要です。

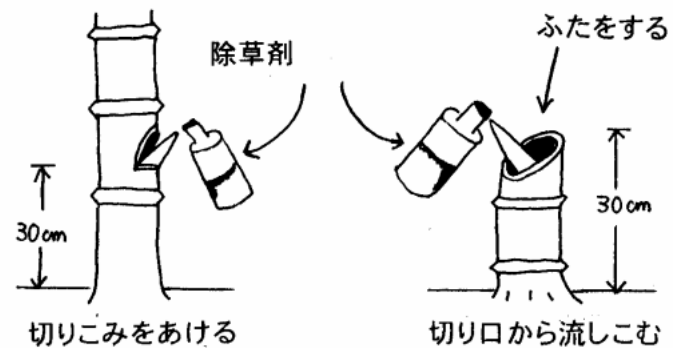
竹の防除方法

竹の防除は、生育盛期を過ぎた9～11月頃が適期ですが、4～6月でもある程度の効果は期待できます。

防除の際は、地上30cm程度の高さで節と節の間に穴を空けて、そこに除草剤を原液で流し込みます。流し込む量は1本あたり5～15mlです。

竹を切ってしまう、切り口から流し込む方法もありますが、この場合には効果を高めるために流し込んだ後、切り口をふさいでおく必要があります。

竹の防除方法



薬剤の効果はすぐに現れてきません。散布後3ヶ月ほどで枯れ始め、散布した翌春までかけてゆっくりと枯れていきます。

除草剤散布の条件

今回紹介したグリホサート系液剤は、土に触れると速やかに不活性化されてしまいますので、土に触れさせないことが必要です。また、散布した後に雨が降ると除草剤が流れてしまいますので、散布後6時間は雨が降らない様な日に散布することが大切です。

また、薬剤の使用にあたっては、商品の説明書きを良く読んでお使いください。

担当者 育林部 小山泰弘